

【ネットカンファレンス プレゼンテーション資料】

## 2015年度 第3四半期決算 Be the Best, Be the One 2017

2016年2月5日  
住友商事株式会社

◆ Sumitomo Corporation

### Topics

1. 2015年度 第3四半期実績
2. 主な減損案件の計上理由
3. 2015年度 通期見通し
4. フリーキャッシュ・フローの状況

#### 将来情報に関するご注意

本資料には、当社の中期経営計画等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣が中期経営計画を成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

◆ Sumitomo Corporation

## 1. 2015年度 第3四半期実績

BE THE BEST. BE THE ONE

(単位：億円)	2014年度 第3四半期実績	2015年度 第3四半期実績	前年同期比
<b>当期利益</b>	△103	613	+716
(うち減損損失)	(△1,928)	(△1,116)	(+812)
(うち減損損失を除く業績)	(1,826)	(1,730)	(△96)
<b>基礎収益 (減損損失除く)</b>	1,708	1,600	△109
(うち資源ビジネス)	(6)	(△16)	(△22)
(うち非資源ビジネス)	(1,703)	(1,616)	(△86)

※ 基礎収益 = (売上総利益 + 販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額) + 利息収支 + 受取配当金) × (1 - 税率) + 持分法による投資損益

- ✓ 当第3四半期に含まれる主な減損損失
  - マダガスカル ニッケル事業 △770億円
  - 南アフリカ 鉄鉱石事業 △183億円
  - チリ 銅・モリブデン事業 △140億円
- ✓ 資源ビジネスの基礎収益は、資源価格下落の影響により、前年に引き続き厳しい状況
- ✓ 非資源ビジネスの基礎収益は、前年同期比 約△100億円の減益
  - 鋼管事業：原油価格下落の影響により減益
  - その他：輸送機・建機、メディア・生活関連などの主要事業は堅調に推移

## 2. 主な減損案件の計上理由

BE THE BEST. BE THE ONE

- ✓ **マダガスカル ニッケル事業(Ambatovy)**
  - 足元のニッケル価格の下落を踏まえ、中長期価格前提を見直し  
中長期価格：\$8.5/lb
- ✓ **南アフリカ 鉄鉱石事業(Oresteel)**
  - 足元の鉄鉱石価格の下落を踏まえ、中長期価格前提を見直し  
中長期価格：\$60/t程度
- ✓ **チリ 銅・モリブデン事業(Sierra Gorda)**
  - 足元の銅・モリブデン価格の下落を踏まえ、今後の価格見通しを引き下げ  
(銅) 中長期価格：\$3/lb台前半  
(モリブデン) 中長期価格：\$10/lb程度
  - コスト削減や将来の拡張計画も含めて事業計画を見直し

### 3. 2015年度 通期見通し

(単位：億円)	2015年度 見通し(10月) ①	2015年度見通し(2月) ②		差異 ②-①	
		3Q累計実績	4Q見通し		
<b>当期利益</b>	2,300	<b>1,000</b>	613	387	△ 1,300
当期利益 (減損損失を除く)	2,300	<b>2,400</b>	1,730	670	+100
減損損失(見込)		約△1,700	△ 1,116	約△600	
インドネシア自動車 金融事業 再編益(見込)		約300	-	約300	
<b>基礎収益</b> (減損損失を除く)	2,100	<b>約2,000</b>	1,600	約400	約△100
(うち資源ビジネス)	(△100~0)	(△200~△100)	(△16)	(△200~△100)	(約△100)
(うち非資源ビジネス)	(2,100~2,200)	(2,100~2,200)	(1,616)	(500~600)	(0)

- ✓ 減損損失を除く当期利益：2,400億円（10月見通し比 +100億円）
  - 資源ビジネスや鋼管事業は厳しい事業環境が継続する一方、その他の非資源ビジネスは概ね堅調に推移
  - 第4四半期に、再生可能エネルギー事業や不動産案件等のバリュー実現益を見込む
- ✓ 減損損失：約△1,700億円 ⇒ 第3四半期の△1,116億円に加え、第4四半期で約△600億円を見込む
- ✓ インドネシア自動車金融事業の再編益：約300億円 ⇒ 手続きは順調に進捗しており、今期中の利益計上を見込む

### 4. フリーキャッシュ・フローの状況

(単位：億円)	2015年度 第3四半期 (2015/4-12)	BBBO2017 3年合計計画 (2015-17年度)
基礎収益キャッシュ・フロー(※)	+1,498	+7,000
減価償却費及び無形資産償却費	+912	+3,000
資産入替による回収	約+800	+4,000
その他の資金移動	約+1,700	
キャッシュ・イン合計	約+4,900	+14,000
投融資実行	約△2,300	～△12,000
追加投資及び更新投資	約△1,900	△6,000
新規投資	約△400	～△6,000
フリーキャッシュ・フロー	+2,581	+2,000～
配当	△624	△2,000
配当後フリーキャッシュ・フロー	+1,957	黒字確保

基礎収益キャッシュ・フロー  
コアビジネスが着実にキャッシュを創出

資産入替による回収  
オフィスビル売却  
米国風力発電事業一部売却  
米国住宅事業 等

その他の資金移動  
鋼管事業 営業資産削減 等

投融資実行  
・追加投資/更新投資  
マダガスカル ニッケル事業  
(SNC-Lavalin 5%分買い増し)  
米国建機以外の事業 等

・新規投資  
国内商業施設等不動産取得  
ベルギー-洋上風力発電事業  
農業生産用肥料製造事業 等

※基礎収益キャッシュ・フロー = 基礎収益 - 持分法による投資損益 + 持分法投資先からの配当

# Appendix

## 減損損失内訳

### ◆2015年度 第3四半期

案件名	金額 (億円)
マダガスカルニッケル事業 (Ambatovy)	△770
南アフリカ鉄鉱石事業 (Oresteel)	△183
矽銅・矽鉄事業 (Sierra Gorda)	△140
米国タトイル開発プロジェクト	△15
北海油田事業	△10
税効果等	+3
<b>合計</b>	<b>△1,116</b>
内、資源・化学品事業部門	△1,101
内、海外現地法人・海外支店	△15

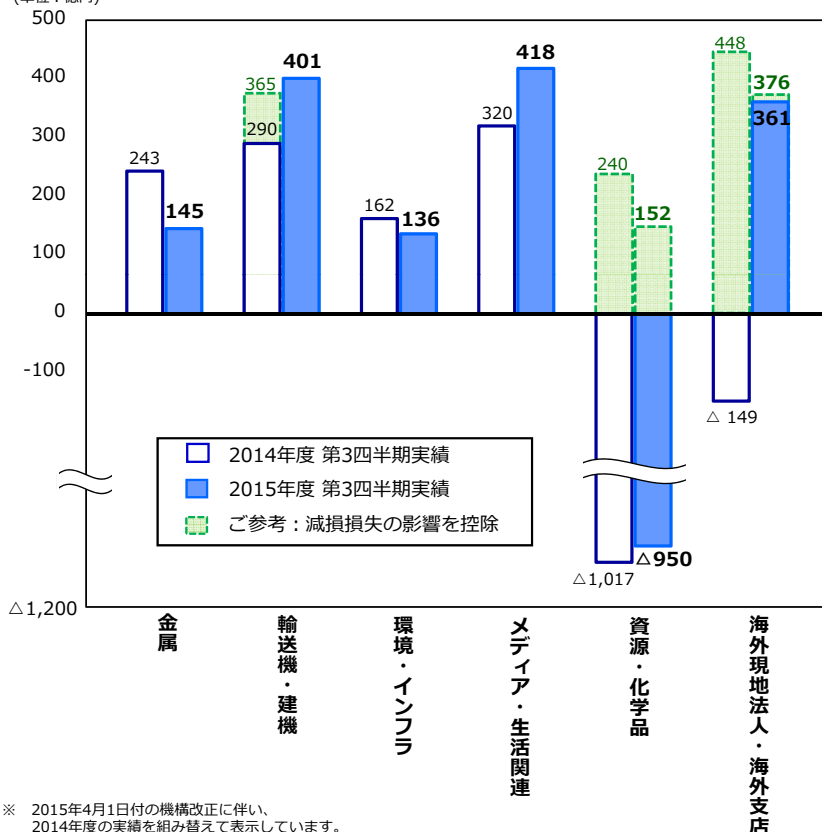
### (ご参考)2014年度 第3四半期

案件名	金額 (億円)
米国タトイル開発プロジェクト	△1,736
蒙州石炭事業	△242
米国タイヤ事業(TBC)	△219
税効果等	+269
<b>合計</b>	<b>△1,928</b>
内、輸送機・建機事業部門※	△75
内、資源・化学品事業部門	△1,257
内、海外現地法人・海外支店	△596

※ 2015年4月1日付で、メディア・生活関連事業部門下にあったタイヤ部を輸送機・建機事業部門に移管しております。

# 2015年度 セグメント別 第3四半期実績

(単位：億円)



## セグメント別 実績概要

- **金属事業部門**
  - 北米鋼管事業 減益
  - 海外スチールサービスセンター事業 堅調
- **輸送機・建機事業部門**
  - リース事業 及び 米国建機以外の事業 堅調
  - 前期減損損失影響あり
- **環境・インフラ事業部門**
  - 海外電力事業 堅調
  - 国内電力事業 電力卸市場の価格変動の影響あり
- **メディア・生活関連事業部門**
  - 国内主要事業会社 堅調
  - 不動産事業 堅調
- **資源・化学品事業部門**
  - 前期 及び 当期減損損失影響あり
  - 対・テカガラ・マイニング 販売量増加
  - 鉄鉱石事業 減益
- **海外現地法人・海外支店**
  - 前期 及び 当期減損損失影響あり
  - 資産入替に伴うバリュ-実現あり
  - 北米鋼管事業 減益

※ 2015年4月1日付の機構改正に伴い、2014年度の実績を組み替えて表示しています。

# 2015年度 セグメント別 通期見通し

(単位：億円)	第3四半期			通期見通し	(ご参考) 見通し 2015年10月時点
	実績 ①	減損額 ②	実績(減損除く) ①-②		
金属	145	-	145	・北米鋼管事業 減益 ・マレーシア アルミニウム製錬事業 減益 ・海外スチールサービスセンター事業 堅調	180
輸送機・建機	401	-	401	・リース事業 及び 米国建機以外の事業 堅調 ・新興国の市場低迷 及び 海運市況 低迷の影響あり	500
環境・インフラ	136	-	136	・海外電力事業 堅調 ・第4四半期に国内外再生可能エネルギー分野におけるバリュ-実現を見込む	220
メディア・生活関連	418	-	418	・J:COM、SCSK、ショップチャンネル等 国内主要事業会社 及び 不動産事業 堅調 ・豪州穀物事業 業績不調	630
資源・化学品	△ 950	△ 1,101	152	・資源価格下落により減益 ・第4四半期に税効果を見込む	260
海外現地法人・海外現地法人	361	△ 15	376	・北米鋼管事業 減益 ・第4四半期に海外再生可能エネルギー分野におけるバリュ-実現を見込む	440
消去又は全社	102	-	102		70
合計	613	△ 1,116	1,730	減損損失を除く見通し	2,400 ← 2,300

### 総括

- ・ 資源ビジネス及び 鋼管事業  
⇒ 厳しい事業環境が 継続
- ・ 非資源ビジネス  
⇒ 概ね堅調に推移
- ・ 4Qにバリュ-実現を見込む

## 【プロジェクトの状況】

- ✓ 2015年 9月 完工達成
- ✓ 2015年12月 ニッケル市況悪化を受けて減損  
(当社連結ベース△770億円)

⇒ 当社エクスポージャーは約17億ドルへ

	(7月～9月)	(10月～12月)
稼働率	: 86%	80%
キャッシュコスト	: \$ 4.24/lb	\$ 4.07/lb

## 【今後の取り組み】

- ✓ 高い稼働率での安定した操業を維持
- ✓ コスト削減の推進

## 【プロジェクトの状況】

- ✓ 2015年 6月 フェーズ1 商業生産達成
- ✓ 2015年12月 価格下落及び事業計画見直しにより減損  
(当社連結ベース△140億円)

⇒ 当社エクスポージャーは約8億ドルへ  
(完工保証3億ドルを含む)

- ✓ 現在のプラント稼働率は80～90%程度

## 【今後の取り組み】

- ✓ フェーズ1（鉱石処理量11万ト/日）のフル生産及びコスト削減による安定操業の早期実現
- ✓ フェーズ2（鉱石処理量19万ト/日以上への体制への拡張）については、フェーズ1のランプアップ状況及び事業環境等を踏まえて開発判断